

「千曲寮」－永遠に

丸山隆平（9組）



多くの友人から「3月末に千曲寮が閉鎖される」というニュースが伝えられた。ほとんどは、信濃毎日新聞の記事をきっかけとするものだったが、実は、この話はそれよりずっと以前に私の耳に入っていた。

「千曲寮」とは、以前（2023年4月11日付）に65期のHPに寄稿したが、旧上田中学・上田松尾高・上田高卒業生を中心とした在京生のための学生寮。大正7年（1918年）、青木村出身の五島慶太氏が中心となり、千代田区三番町にあった松平家屋敷跡に設立された。私は大学時代、1年目は三番町で、2～4年は新築された三鷹で、マルマル4年間を過ごした。

高校時代の班活動や大学でのサークルなど忘れられない「時代」が誰にもあると思うが、私の場合は「千曲寮」がそれだ。当時、学生運動の影響で大学が長期間、ストライキで封鎖されたこともあり、その分、アルバイトなど寮生活が充実することとなった。ダンパ、バンド、合ハイ、麻雀、ボーリングなどの遊び、競馬場警備やスーパーの清掃などのアルバイト、飲み会、寮祭などを通じ、野沢北、屋代、長野、松本深志などの卒業生との交流も深まった。

「千曲寮が封鎖される」という話は、最初、青木村出身で東京青木会を支えている宮原豊君（9組）から伝わった。千曲寮創設者が五島氏で彼が青木村出身であることによるものだ。

思い出してみると、私の在寮時代、卒業生が「寮友会」を組織していて毎年、在寮生との交流があり、就職の面倒も見てくれていた。三番町の寮が古くなり、三鷹に新寮を建築するための資金手当てなども全て当時の理事会と寮友会が対応した。

それから50年。今回の閉鎖では理事会など関係者が動いた跡が見られない。

日本が変わった「失われた30年」はここにも色濃く出ている。

（2025年3月6日記）

以上